

## 第5章 少年非行と来日外国人犯罪

### 1. 少年非行

今回の調査の主題は、犯罪被害に対する不安感と防犯対策であるが、それに加えて現在我が国において緊急の問題になっている少年非行と来日外国人犯罪を調査課題に取り上げた。

少年非行については、2年前の本調査でも取り上げている。ここでは、非行問題について今回調査した結果の全体的回答分布と、一部について都市規模別および管区別比較を示す。なお詳細な分析は、前回調査との比較も含めて第Ⅲ部第8章で行う。

調査で設問した内容は、次の5問である。

#### (1) 少年非行に関する量的動向に関する認識

調査対象者に、「周囲を見回して、あなたは少年の非行・犯罪が増えていると思いますか」と尋ねた。

「増えていると思う」が66.3%、「変わらないと思う」が20.7%、「減っていると思う」が1.6%、「分からない」が11.1%であった。減っていると見る人はほとんどいない。

#### (2) 少年非行に関する質的動向に関する認識

「周囲を見回して、あなたは少年の非行・犯罪が悪質になっていると思いますか」と尋ねた。

「悪質になっていると思う」が71.2%、「変わらないと思う」が14.6%、「良くなっていると思う」が0.8%、「分からない」が12.9%であった。良くなっていると見る人は全くといえるほどいない。

#### (3) 今後問題になる非行問題

「少年のどのような行動がこれからの社会にとって問題だと思いますか」と尋ね、10の問題行為（それ以外に危惧される行為があれば、「その他」として自由に行為を書いてもらう）を示し、問題と思える行動を3つまで選んで○（マル）をつけてもらった。

指摘が多かった順に、①「シンナー・覚醒剤等の薬物乱用」57.1%、②「マナー無視の振る舞い」55.9%、③「深夜はいかい（夜遊び等）」35.6%、④「いじめ」35.0%、⑤「窃盗（万引き、自転車盗等）」30.0%、などが多い他、⑥「暴走行為（暴走族等）」20.6%、

⑦「援助交際」15.9%、⑧「性的な逸脱行為」13.1%、⑨「飲酒喫煙」11.0%、⑩「校内暴力」9.9%、の順である。

なお自由回答は1.4%と極めて少ないが、その中には、「インターネット上の遊び」、「命を大事にしない様々な攻撃」、「いじめを受けた子の報復」等があった。

また都市規模別には、大都市では、マナー無視の行い(61.8%、特に東京では69.4%)がその他に比べて高い(全体平均は55.9%)。その他の問題行為については、都市規模別回答に大きな違いはないが、若干ではあるが、暴走行為は町村で、性的な逸脱行為は大都市で、指摘されることがやや多い。

警察管区別では、シンナー等は九州(66.3%)、中部(64.5%)でやや高く(平均は57.1%)、マナー無視は上に記すように東京で高く、窃盗は中国(36.8%)、東北(35.0%)でやや高い(平均は30.0%)。

深夜はいかいは管区別で大きな違いがあり、近畿(44.1%)・中国(44.2%)・九州(41.5%)では4割を超え、一方、北海道(28.6%)・東北(25.5%)・四国(23.6%)では25%前後である。また援助交際は、北海道(21.4%)、中部(21.5%)だけが2割を超えた(平均は15.9%)。

暴走族は北海道だけが飛び抜けて高くなった(27.4%、平均は20.6%)。

#### (4) 少年に対する大人からの注意

少年非行に対する対策には、大人が能動的に少年に注意出来るか否かが重要であろう。その場面設定として、「あなたは見知らぬ少年が路上でタバコを吸っているのをみたら注意しますか」と尋ねた。

「注意する」は4.5%にとどまり、「注意したいがこわくてできない」が41.0%、「注意しない」が30.3%、「その場にならないと分からない」が23.1%であった。

我が国の大人のほとんどは、能動的・積極的には注意が出来ないでいる。

なお、都市規模別でこの傾向に違いはない。

また管区別では、「注意しない」と「怖くてできない」の回答合計が特に高かったのは、近畿(79.7%、平均は71.3%)であった。その他は概ね70%強だが、四国と九州は67%弱で、他管区の場合よりも低かった。

男女別、年齢別等でこの比率は若干変わるが、その分析は第Ⅲ部で行う。

#### (5) 少年非行の原因について

「少年が非行・犯罪に走る原因はなんだと思いますか」と尋ね、15の選択肢を示して、重要と思う原因を3つまで選んで○(マル)をつけてもらった。

最も多かったのは、「しつけ・親子関係」の76.9%で、その他は全て3割以下だった。その中で○が2割以上付いたのは、「離婚など両親の不和」25.6%、「悪い友人との付き合い」24.8%、「性、暴力などの欲望を刺激する有害環境・情報」24.0%、「子どもの規範意

識の欠如」21.4%、「子ども自身の性格」21.0%、等であった。

その他については第Ⅲ部で示す。

全体としてみて、最大の非行原因はしつけと親子関係の問題だとの認識であり、その他に、家庭環境、友人、有害環境、子ども自身の人格問題等がほぼ等分に問題視されている。

なお非行原因として、しつけ・親子関係の指摘は、大都市で比較的高く(81.5%)、町村で低い(72.3%)。

また管区別でこの指摘が8割を超えたのは、北海道(81.0%)、近畿(80.8%)、四国(84.7%)の3管区、一方、7割を切ったのは、東北(66.2%)の1管区のみで、その他は7割台である。

## 2. 来日外国人犯罪

来日外国人による犯罪が近年話題になることが多い。そこで、人々がこの問題をどのように認識しているかを調査課題にした。設問は、実際に来日外国人からの被害を受けたことがあるか、最近の動向、および来日外国人犯罪減少のための施策についての意見である。

### (1) 来日外国人からの犯罪被害

この設問は、問4において、「あなた、あるいは同居の家族の誰かが、この1年間に、次のような人から犯罪の被害を受けたことがありますか」と尋ねた中で、選択肢に「来日外国人」を入れることで調べた。その結果は第2章に示したように、被害を受けた人の中で、加害者が特定された割合がごく少ないので、実態は推測し難いとみた。ちなみに来日外国人から被害を受けたと記したのは8名だけで、被害者率は0.4%でしかなかった。

### (2) 来日外国人犯罪の動向

設問「あなたは現在日本で、来日外国人犯罪が増えていると思いますか」と尋ねた。

回答は、「増えていると思う」82.0%、「変わらないと思う」8.5%、「減っていると思う」0.2%、「分からない」8.6%、無答0.6%であり、圧倒的多数がふえているとの認識だった。

この傾向については、都市規模別、管区別に比べても、特別の違いはない。

### (3) 来日外国人犯罪への防犯対策

「あなたは、来日外国人犯罪を減少させる(抑止するため)には何が必要だと思いますか」と尋ね、8つの項目を並べ、当てはまる項目全てに○(マル)をつけてもらった。

対策として○が多かった順に、①「不法滞在者の摘発を強化する」63.1%、②「不法入国させないための監視を強化する」62.7%、③「犯罪の取締まりを強化する」59.8%、④「ビザ発給や入国審査を厳しくする」48.0%、⑤「刑罰をもっと厳しくする」37.4%、⑥

「国外に逃亡した犯人の処罰を徹底する」28.7%、⑦「外国人の就労制限の緩和を行って、労働による収入を得やすくさせる」27.3%、⑧「外国人との共生を目指した広報啓発活動を強化する」24.7%、の順となった。

大方の意見は、統制・監視強化の方針に賛成が多いが、経済的援助と共生の方針にも2～3割の人からの賛意がある。

以上の傾向は、都市規模別には若干の違いを見せ、大都市住民の方が様々な意見に賛意を示すことが多い。ただしその方向は、統制・監視強化を求めると同時に、共生の方向にも賛意が多くなり、一方に偏ってはいない。

管区別では特段の特徴がある管区は認められなかった。